

〔茶道筌蹄〕茶碗之部

天目類建安縣天目山にて焼し物故、天目と云。

曜變 星のごとき數あるを、天目の中にて曜變と云、玳皮蓋 鼈甲のやうの出來にて薄手

なり、梅龍の模様、或は文字などあり、油滴 藥溜り雫の様になる故に名づく 灰被イソギキ ア

クなど懸たる様に見ゆるなり 蓼冷汁 蓼汁を懸たるやうに青みあり 烏蓋 色の黒

き出來なり 禾 ノギ筋の立たるなり 黄 藥溜りの端に黄色あり 建蓋 建安縣

の蓋といふ事なり、いづれの手とも付ざるを建蓋と名づく、瀬戸 瀬戸にて天目を寫した

るなり

青磁之類

雲鶴 青磁の中にて至て古し、引木鞘、狂言袴といへる物、世に名高し、珠光 珠光所持三井

傳來なり、何れも是に似よりたる物を云なり、人形手 人形なきをも人形手と云 饒州ニガハタ

茶碗の縁にサハリフクリンの入たるもあり、東山殿足利義政 時代、甚重寶したる物なり、天目に

次ぐ、

染付之類

古染付 利休、紀三井寺の香爐を茶碗に用ゆるより始る、其外雲堂 松竹梅 唐花何れも古

染付なり 虫喰 祥瑞 吳洲 赤繪 古赤繪 金襴手 宋胡錄 ハチノ

子と云形なり 安南 紅毛 井戸 井戸若狹守所持の類を云、井戸は土を見ざるを上

品とし、熊川は土を見るを上品とす、

名物手 小井戸 大井戸 小クハンニウ 青井戸 井戸脇

熊川コモガ 朝鮮の地名なり